走泥社再考　前衛陶芸が生まれた時代

The Sodeisha Group: An Era Born Out of Avant-garde Ceramics

1. 八木一夫「白い箱 OPEN OPEN」1971 年

2024年 4 月 20 日(土)～9 月 1 日(日)

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 ℡ 03-5733-5131

主　　催　　公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
協　　賛　　株式会社南悠商社、京葉ガス株式会社
特別協力　　国立工芸館
企画協力　　京都新聞

※プレスプレビューのご案内は最終ページです。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。この度は、2024 年 4 月 20 日から 9 月 1 日まで開催いたします**「走泥社再考　前衛陶芸が生まれた時代」展**をご案内させていただきたくプレスリリースをお送りいたします。

本展は、前衛陶芸家集団として戦後日本の陶芸を牽引した走泥社(そうでいしゃ)の活動を検証する展覧会です。走泥社は 1948 年に京都の陶芸家、八木一夫、叶哲夫、山田光(ひかる)、松井美介(よしすけ)、鈴木治の 5 人で結成されました。同人は入れ替わりながらも陶芸家に限らない多様な人材が集まり、50 年にわたり活動を続けます。いわゆる器ではなく、立体造形として芸術性を追求した陶芸作品を創り出し、その視点を日本の陶芸に根付かせたことは走泥社の功績といえるでしょう。当時、それは「オブジェ焼」と呼ばれました。

走泥社の前衛性は特に活動期間の前半に認められることから、本展では結成 25 周年となる 1973 年までに焦点をあて、25 年の間に同人であった 42 名のうち作品が残る 32 名の制作を通し、走泥社の活動をご覧いただきます。また、資料等により同時期に展開された他の前衛陶芸活動や日本の陶芸に影響を与えた海外の制作をご紹介し、その比較も交えて、前衛陶芸が生まれた時代を振り返ります。

なお、本巡回展は 3 章で構成する展覧会ですが、当館では 1 章と 2 章を前期、3 章を後期として会期中に展示替えを行います。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

展覧会概要

〇展覧会名　「走泥社再考　前衛陶芸が生まれた時代」展
〇会　　期　2024 年 4 月 20 日（土）～9 月 1 日(日)
　　前期：4 月 20 日（土）～6 月 23 日（日）
　　後期：7 月 5 日（金）～9 月 1 日（日）
〇休 館 日　毎週月曜日（ただし 4 月 29 日、5 月 6 日、7 月 15 日、8 月 12 日は開館)、4 月 30 日（火)、5 月 7 日（火)、7 月 16 日（火)、8 月 13 日（火)、展示替え期間
〇開館時間　午前 11 時から午後 6 時まで
　　（入館は午後 5 時 30 分まで)
〇観 覧 料　一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
　　2 回券（一般 1,700 円、大学生 1,300 円、小・中・高生 800 円)
〇会　　場　菊池寛実記念 智美術館（東京都港区虎ノ門 4-1-35)
〇主催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社　〇協賛 株式会社南悠商社、京葉ガス株式会社　〇特別協力 国立工芸館　〇企画協力 京都新聞

展示替えに伴う休館期間

以下の期間は休館し、展示替えを行います。前期と後期の展示替えの他、各期内にも展示替えをいたします。最新情報は当館 HP をご確認ください。

5 月 27 日(月)～5 月 30 日(木)
6 月 24 日(月)～7 月 4 日(木)
7 月 29 日(月)～8 月 1 日(木)

前期

一章

器の形態を立体造形として自立させようと模索する走泥社最初期の作品を紹介します。この時期の制作には、中国や朝鮮半島の陶磁器にもとづく様式や技術を基盤にしつつ、器体をカンバスに見立てたようなパブロ・ピカソの陶器や絵画、イサム・ノグチのテラコッタをはじめとする同時代の美術表現からの影響が見受けられます。陶芸界の伝統的な規範から離れ、絵画的な文様表現で自身の抱くイメージを現し、あるいは、陶磁器が持つ造形上の要素を現代の造形に昇華させようとした点に走泥社の前衛意識が窺えます。

2. 鈴木治「ロンド」1950 年

3. 山田光「二つの口の壺」1952 年

4. 八木一夫「ザムザ氏の散歩」1954 年

二章

現在では陶のオブジェとは一般的に実用性のない陶の造形作品を指しますが、当時は造形を通じた心象風景の表象と捉えられていました。二章では、前衛陶芸家たちが作者の内面性を表現する陶芸の在り方に創作の可能性を見出し、そのような制作が根付いていった時期の作品を紹介します。走泥社以外で活動していた有力な陶芸家たちが同人として合流し、それぞれの陶芸観にもとづく制作によって多様性ある前衛陶芸家集団として走泥社の骨格が定まっていった時期でもあります。

5. 山田光「二つの塔」1959 年

6. 鈴木治「土偶」1963 年

7. 藤本能道「日蝕」1957 年

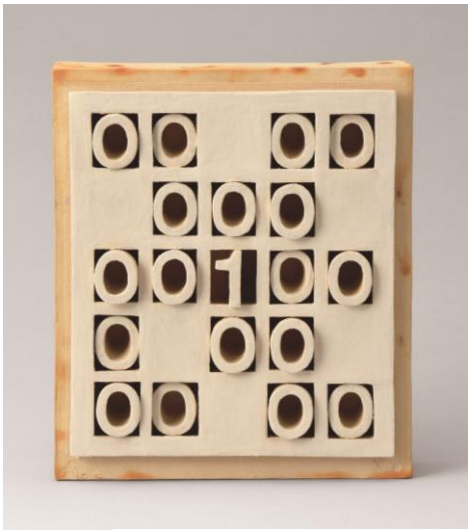
後期

三章

1964 年に開催された「現代国際陶芸展」で海外の陶芸表現が初めてまとまった形で紹介されると、伝統や素材、技術の捉え方の違いから生じる異なる陶芸表現に日本の美術・陶芸界は衝撃を受け、動揺します。そして自己の創作を検証することで、心象風景の表象として始まった陶のオブジェが、前衛性を求めるだけでなく個々人の造形表現としての成熟へと向かっていきました。三章では、海外の制作が盛んに紹介される中、草創期からのメンバーと次世代の若手作家とが併存し、多様な造形表現が為されるようになった充実期の作品を紹介します。

8. 鈴木治「馬」1971 年

9. 八木一夫「頁1」1971 年



10. 山田光「1の周辺」1976 年

11. 宮永理吉「パイプ」1972 年

12. 林康夫「ホットケーキ」1971 年

13. 三輪龍作(龍氣生／十二代休雪)
「愛の為に」1968 年

走泥社　名前の由来

「走泥社」とは中国の均窯の釉にみられる「蚯蚓走泥文（きゅういんそうでいもん）」から名付けられました。蚯蚓（ミミズ）が泥を這った跡にたとえられる、曲がりくねった線状の模様が特徴です。

○関連行事

◎講演会1

「今、なぜ走泥社なのか」

大長智広（京都国立近代美術館主任研究員）

5 月 18 日（土）15 時から B1 展示室にて

◎講演会2

「三輪龍氣生が語る走泥社前後の青春陶芸」

三輪龍氣生（本名：龍作／十二代休雪、元走泥社同人）

聞き手＝島崎慶子（当館主任学芸員）

7月 13 日（土）14 時から B1 展示室にて

◎学芸員のギャラリートーク

いずれも土曜日、15 時から

5 月 11 日、25 日／6 月 15 日／8 月 3 日

※関連行事の予定は変更になる場合もございます。最新情報は当館 HP をご覧ください。

◎ナイトミュージアム

ユニット「やぶかたり」によるパフォーマンス

閉館後の展示室で体験する文学と陶芸のコラボレーション。

今回はこれまでの朗読劇とは趣を変えて開催します。

出演=今井朋彦、矢代朝子

8 月 23 日(金)、8 月 24 日（土）

演目等、詳細は当館 HP をご覧ください。

申込制→info@musee-tomo.or,jp

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。**お問い合わせ先　菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎）**

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：０３－５７３３－５１３２

E-mail: info@musee-tomo.or.jp

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署／担当者名:	E-MAIL:
住所:	電話・FAX:

●媒体情報

新聞	媒体名:	
雑誌	発行日:	発売日:
TV	媒体名:	
ラジオ	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト　※キャプションには作者・作品名・制作年・所蔵者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
□	（表紙・図 1）八木一夫「白い箱 OPEN OPEN」1971 年 京都国立近代美術館　w23.0×d23.0×h29.0 cm
□	（図 2）鈴木治「ロンド」1950 年　華道家元池坊総務所 w19.5×d19.5×h43.5 cm
□	（図 3）山田光「二つの口の壺」1952 年 岐阜県現代陶芸美術館　w26.0×d26.0×h22.0 cm
□	（図 4）八木一夫「ザムザ氏の散歩」1954 年 京都国立近代美術館 w27.0×d14.0×h27.5 cm
□	（図 5）山田光「二つの塔」1959 年 和歌山県立近代美術館 左 w30.0×d8.7×h81.5/右 w30.5×d10.8×h77.5 cm
□	（図 6）鈴木治「土偶」1963 年 京都国立近代美術館 w35.3×d25.8×h47.0 cm
□	（図 7）藤本能道「日蝕」1957 年　京都市立芸術大学芸術資料館　w38.5×d26.0×h52.0 cm
□	（図 8）鈴木治「馬」1971 年　京都国立近代美術館　w45.0×d17.0×h81.0 cm
□	（図 9）八木一夫「頁1」1971 年　岐阜県現代陶芸美術館　w23.0×d16.0×h14.5 cm
□	（図 10）山田光「1の周辺」1976 年　岐阜県現代陶芸美術館 w34.5×d6.0×h40.0 cm
□	（図 11）宮永理吉「パイプ」1972 年　広島県立美術館　w18.0×d14.5×h26.0 cm
□	（図 12）林康夫「ホットケーキ」1971 年　和歌山県立近代美術館　w33.0×d32.0×h18.0 cm
□	（図 13）三輪龍作(龍氣生／十二代休雪)「愛の為に」1968 年 国立工芸館 w27.0×d8.0×h17.5 cm

●読者プレゼント用チケット希望：　□5 組 10 名様　□10 組 20 名様

※チケット発送は 4 月上旬になります。

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー　2024 年 4 月 19 日（金）　14:00 ～

14:00 ～14:45　展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00　皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館　〒105-0001　港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅：出口 A1・A 2 徒歩 8 分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、E-mail もしくは FAX にてご返信下さい。　**E-mail　info@musee-tomo.or.jp**
FAX　03-5733-5132

会社名:	
担当部署、氏名	
住所:	
電話:	**FAX:**
Email	